



晴天の心

立教 185 年 8 月号

大阪府富田林市寿町 4-9-10

URL:www.tomiishi.net

TEL:0724-23-3466 090-5243-4669



暑い夏が来ました。
暑中お見舞い申し上げます。
そして、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。連日 20 万人を超える人が、感染し病と闘っています。

当教会も、デイサービスを利用している母親が、ひどい咳をしだしたので、かかりつけの病院から発熱外来を受診したところ、感染して陽性だと判明。デイサービスでクラスターが発生したようで、そのとき利用していた利用者に広がったようです。翌日には、保健所から手配してもらった病院へ入院して隔離となりました。

一安心したのもつかの間、娘も陽性となり、軽症なことから自宅での療養となっています。ということは、必然的に濃厚接触者となりますので、現在自宅待機となっています。

母親の入院後に徹底して消毒作業を行ったのですが、やはり行き届かないところがあるのでしょね。

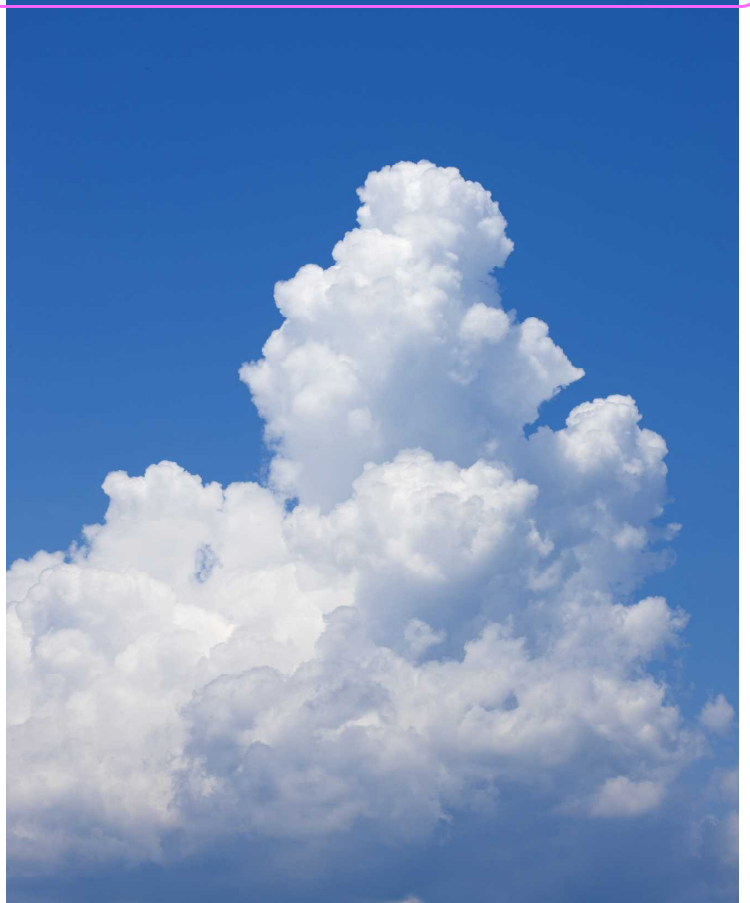
家族内での感染となると、部屋自体は個室化してはいるのですが、どうしても共用部分があります。トイレ、洗面所、食堂、お風呂、脱衣所、玄関とそこに繋がる廊下。誰もが通る使う場所ですので、意識して消毒を行わないと感染が広がってしまうでしょう。最近では様々なウイルス対策機器がありますので、できる限りそれらも活用することで心理的負担を下げることにになります。例えば、光触媒やイオン除菌機能のついた、人を感知して光るLED電球などを、天井に付けると、電気代を下げつつウイルス対策にもなり除菌してくれているという心理的安心感もあります。

道具を作り出すことも、神様から頂いた大きな守護。そしてそれを時と場合に併せて活用するのも大切なことだと思います。

立教間もない頃は、歩いておぢばに帰っていましたが、歩けない人は戸板に乗せて運んでお願いに行ったといいます。それが人力車になり鉄道になりバスや自家用車となっていったのですから、道具をきちんと活用することはとても大切なことだと思います。

朝夕のおつとめを通じて、いま感染して苦しんでいる人たちの、少しでも早い回復を願うとともに、こうして大難を小難にそして小難を無難にしてくださっているご守護に改めて感謝を捧げます。

月次祭 8月19日(金) 午前10時～
婦人会例会 8月9日(火) 午前10時～



お道のニュース

Twitter 公式アカウント開設



@tenrikyo_news

アカウントフォローで

更新情報をいち早くお届け!!



新型コロナウイルス感染防止策の徹底について（更新）教会関係の皆様へ

国内における新型コロナウイルスの感染拡大は、いまだに予断を許さない状況にあります。日頃の教会活動においては、引き続き「三密」を避け、以下の点にも十分ご留意くださいますようお願いいたします。

- ・必要に応じて、マスクを着用しましょう。熱中症には十分ご注意ください。
 - ・手洗いと手指の消毒を徹底するとともに、多くの人が接触する部分の消毒にも努めましょう。
 - ・来会者の検温を実施するなど体調管理と把握を万全にしましょう。
 - ・お互いに常に感染防止に十分な距離を取りましょう。
 - ・咳エチケット（咳やくしゃみをする際、マスクやティッシュ、ハンカチ、袖、肘の内側などを使って、口や鼻をおさえること）をお願いします。
 - ・マスクを着用していてもマイクロ飛沫による感染例が報告されていますので、大声での会話やお歌の唱和は控えましょう。
 - ・普段生活を共にしている人以外の人との会食は避けましょう。
 - ・食事をともにする場合、喫食時以外は常にマスクを着用し、マスクを外した状態での会話は控えましょう。
- なお、今後の状況により内容を更新します。

立教 185 年 7 月 12 日 天理教教会本部

座右のおふでさき -不安が募る時勢にも 親神様を信じ、もたれて-

どのよふな事がありてもしんちつの 心したいにこわい事なし(十四号49)

4 カ月ほど前、ある高齢の信者さんの娘から数年ぶりに電話があった。「母があまり動けなくなり、『会長さんにおさづけを取り次いでもらいたい』と頻りに言っているので、近くに来ることがあれば、お願いします」とのことだった。

急がないとは言われたものの容体が心配になり、翌日、おたすけに伺う旨、電話をかけた。すると「今朝、母が全く動けなくなったので、救急車で病院へ連れて行ってもらいました。新型コロナウイルスの感染予防のために、面会できないそうです」と伝えられた。

居ても立ってもいられず、親神様・教祖に無事をお願いしたうえで、市内の別の信者さん方のおたすけに回った。しかし、病院や介護施設では感染防止のため面会を断られ、おさづけを取り次がせてもらえなかった。

さらには、近しい教友の出直しが続いた。このような時勢のために、どこも家族葬でつとめられた。身上や事情に苦しむ方が身近にいるにもかかわらず、直接会えない状況に、不安が募るばかりだった。

そんななか脳裏に浮かんだのが、以前、祖父である 4 代会長から不安や心配事があるたびに聞かされていた掲出のお歌だった。

親神様は、どのようなことが起こっても、真実の心さえあれば決して怖いことはないと言せられる。また、続くお歌では、心さえすっきり澄んでいれば、どのようなことでも楽しみと受け取ることができるのだと。

現在、各地で人々が寄り集うことが困難になり、おぢばでの恒例行事も中止や延期となっている。しかし、親神様は、決して人間を苦しめようというのではなく、どうしても一人残らずたすけ上げたいとの仰せである。

このことを信じ、親神様にもたれて皆で励まし合い、近い将来、「このときを協力して乗り越えたからこそ今がある」と思えるようにつとめたい。

長畠賢治 若松分教会長

手も気持ちもぴっぴちゅ!!



たかみ ちか
高海 千歌



＊6896 梨子
核内 梨子

新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などこまめに手を洗います。



わたなべ よう
渡辺 曜

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



手の甲をのぼすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。手首も忘れずに洗います。



手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

九五 道の二百里も

明治十四年の暮、当時、新潟県の農事試験場に勤めていた大和国川東村の鴻田忠三郎が、休暇をもらって帰国してみると、二、三年前から眼病を患っていた二女のりきが、いよいよ悪くなり、医薬の力を尽したが、失明は時間の問題であるという程になっていた。

家族一同心配しているうちに、年が明けて明治十五年となった。年の初めから、この上は、世に名高い大和国音羽山観世音に願をかけようと、相談していると、その話を聞いた同村の宮森与三郎が、訪ねて来てくれた。宮森は、既に数年前から入信していたのである。早速お願いしてもらったところ、翌朝は、手の指や菓子がウッスラと見えるようになった。

そこで、音羽山詣りはやめにし、三月五日に、夫婦とりきの三人連れでおぢばへ帰らせて頂き、七日間滞在させて頂いた。その三日目に、妻のさきは、「私の片目を差し上げますから、どうか娘の儀も、片方だけなりとお救け下され。」と、願をかけたところ、その晩から、さきの片目は次第に見えなくなり、その代わりに、娘のりきの片目は、次第によくなって、すっきりお救け頂いた。この不思議なたすけに感泣した忠三郎は、ここに初めて、信心の決心を堅めた。

そして、お屋敷で勤めさせて頂きたいとの思いと、新潟は当時歩いて十六日かかった上から、県へ辞職願を出したところ、許可はなく、「どうしても帰任せよ。」との厳命である。困り果てた忠三郎が、「如何いたしましょうか。」と、教祖に伺うと、

「道の二百里も橋かけてある。その方一人より渡る者なし。」

との仰せであった。

このお言葉に感激した鴻田は、心の底深くにをいがけ・おたすけを決意して、三月十七日新潟に向かって勇んで出発した。こうして、新潟布教の第一歩は踏み出されたのである。

九六 心の合うた者

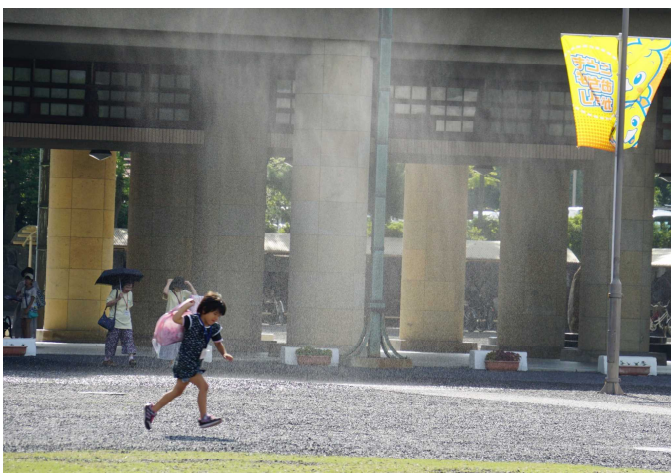
明治十四、五年頃、教祖が、山沢為造にお聞かせ下されたお言葉に、

「神様は、いんねんの者寄せて守護して下さるねで。『寄り合っている者の、心の合うた者同志一しょになって、この屋敷で暮らすねで。』と、仰っしゃりますねで。」と。

九七 煙草畑

ある時、教祖は、和泉国の村上幸三郎に、

「幻を見せてやろう。」



と、仰せになり、お召しになっている赤衣の袖の内側が、見えるようになされた。幸三郎が、仰せ通り、袖の内側をのぞくと、そこには、我が家の煙草畑に、煙草の葉が、緑の色も濃く生き生きと茂っている姿が見えた。それで幸三郎は、お屋敷から自分の村へもどると、早速煙草畑へ行ってみた。すると、煙草の葉は、教祖の袖の内側で見たのと全く同じように、生き生きと茂っていた。それを見て、幸三郎は、安堵の思いと感謝の喜びに、思わずもひれ伏した。

というのは、おたすけに専念する余り、田畑の仕事は、作男にまかせきりだった。まかされた作男は、精一杯煙草作りに励み、その、よく

茂った様子を一度見てほしい、と言っていたが、おたすけに精進する余り、一度も見に行く暇とてはなかった。が、気にかからない筈はなく、いつも心の片隅に、煙草畑が気がかりになっていた。そういう中からおぢばへ帰らせて頂いた時のことだったのである。幸三郎は、親神様の自由自在の御働きと、子供をおいたわり下さる親心に、今更のように深く感激した。